

東日本大震災という、すさまじい自然からの挑戦を体験した時、「これは東北の問題ではない、日本全国の問題を發揮・結集して対峙しなければならぬ問題である。男性に任せるのではなく、むしろ女性が牽引力になつていこう」と考えました。同じ問題意識をもった志の高い女性たちと一緒に始めたのが「JKSK 結集プロジェクト」です。

私が理事長を務めるNPO法人「女子教育奨励会(JKSK)」に参加している首都圏の女性エキスパートたちと、被災地を支える地元的女性た

東北復興日記

21



原発事故で農作物の生産ができなくなった福島県いわき市では、十五カ所約一・五畝でコットン

を進めています。百人の仲間が核になつて

た「かじか村」子ども王国プロジェクト」。津波被害を受けた子どもたちの意見を生かし、石巻高校の避難所で共に暮らした

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結集プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

NPO法人「女子教育奨励会」理事長 木全ミツさん



女性たちの提案を形に

ちが、これまで半年に一た。

度、車座で東北の将来に ついて語り合ってきた。宮城県亶理町では防潮林の再生に取り組む「わたしの写真」。そこで出た具 たりグリーンベルトプロジェクトの提案を実現、成就 シェクト」が始まつてい していくためにいくつも ます。町の人たちが、ワ の支援事業が始まりました

の有機栽培が始まりました。今年の六月にはTシャツとして販売を予定しています。

マスタープランを作成、行政にその実現を働きかけているのです。宮城県登米市内の里山から自然とともに生きる人類の生き方モデルを追究していこうという市民主体の「歩」は確実に進められています。さらに前進させるために、社会に存在するすべての力を結集させていくべきではないでしょうか。